

黒毛和種産肉能力（間接法）検定成績

（種山牧野事務所・畜試 肉牛部）

1. 背景とねらい

県内黒毛和種の産肉能力等経済性の向上を図るため、黒毛和種牛群育種改良推進事業の中で産肉能力（間接法）検定を実施している。今回6頭の種雄牛について同検定が終了し、その成績を得たので改良指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

表1 平成3年度黒毛和種間接検定成績

検定牛		北峰 (n=8)	寿泉 (n=8)	森高藤 (n=8)	第5夏藤 (n=8)	第7昌桜 (n=8)	波福 (n=7)
所有者		岩手県	岩手県	岩手県	岩手県	岩手県	東磐井郡 酪農協
生年月日		62.12.10	63.1.14	63.1.15	63.6.29	63.8.2	63.2.22
登録番号		黒原2090	黒原2089	黒原2088	黒原2146	黒原2147	黒11843
血統	父	第55裕正 黒育205	寿高 黒育204	森気高 黒育203	寿高 黒育204	福昌 黒高618	茂金波 黒育7
	母の父	裕豊 黒高184	栄高 黒育27	裕星 黒高424	裕徳 黒高605	第7糸桜 黒育29	菊照土井 黒育100
体重 (kg)	開始時	309.6 ±10.6	265.5 ±32.6	287.3 ±29.2	308.5 ±28.1	266.1 ±15.5	274.0 ±26.3
	終了時	645.0 ±38.7	585.3 ±49.6	582.1 ±32.3	680.0 ±42.0	578.7 ±42.9	565.1 ±51.2
1日当り増体量 (kg)		0.92 ±0.12	0.88 ±0.06	0.81 ±0.04	1.02 ±0.10	0.86 ±0.09	0.80 ±0.08
1kg増体TDN (kg)		7.02	6.41	6.97	6.83	6.48	6.69
枝肉歩留 (%)		63.2 ±1.1	64.1 ±0.9	63.1 ±1.2	65.7 ±1.2	63.8 ±1.7	64.2 ±0.7
ロース芯断面積 (cm ²)		49 ±8	46 ±4	43 ±5	48 ±5	43 ±4	49 ±5
背部皮下脂肪厚 (cm)		2.1 ±0.5	1.4 ±0.4	1.6 ±0.5	2.1 ±0.5	1.4 ±0.2	1.2 ±0.3
脂肪交雑・(BMS)		1.3 ±0.3	1.9 ±0.7	2.0 ±0.5	2.2 ±1.0	1.6 ±0.6	2.1 ±0.7
枝肉格付		A4-4 A3-3 B4-1	A5-4 A4-2 A3-2	A5-2 A4-6	A5-4 A4-4	A5-2 A4-5 A3-1	A5-3 A4-3 A3-1

本年度検定終了した種雄牛のうち資質系は第7昌桜および波福であり、他4頭は増体系種雄牛である。6頭の主な検定成績の平均値は全国平均値とほぼ同程度であった。

表2 全国成績との平均値比較

平均	検頭数	終了時日 齢(日)	終了時体 重(kg)	1日増体 量(kg)	ロース芯面積 (cm ²)	皮下脂肪 厚(cm)	BMS
全国	343	625.3	585.6	0.89	46	2.0	2.1
本県	6	626.1	606.0	0.88	46	1.6	1.9

北峰； 終了時体重（645.0kg）および1日当り増体量（0.92kg）に優れた増体系の種雄牛である。屠体形質のうちロース芯面積（49cm²）は大きい、BMS（1.3）は低く、肉質等級4以上の割合も62.5%と低い。

寿泉； 増体系の種雄牛としては、終了時体重（585.3kg）も1日当り増体量（0.88kg）も低い。1kg増体当たりのTDN（6.41kg）および皮下脂肪厚（1.4cm）は良好であったが、ロース芯面積（46cm²）、BMS（1.9）は全国平均並であった。肉質等級4以上の割合は75.0%であった。

森高藤； 増体形質の終了時体重（582.1kg）、1日当り増体量（0.81kg）およびロース芯面積（43cm²）は低い、皮下脂肪厚（1.6cm）は薄く、肉質等級4以上の割合も100.0%と良好であった。

第5夏藤； 終了時体重（680.0kg）および1日当り増体量（1.02kg）の増体能力に優れると同時に、屠体形質のBMS（2.2）も全国平均を上回り全調査牛が肉質等級4以上であった。

第7昌桜； 終了時体重（578.7kg）、1日当り増体量（0.86kg）、ロース芯面積（43cm²）およびBMS（1.6）のいずれの項目も全国平均を下回る。肉質等級4以上の割合は87.5%であった。

波福； 終了時体重（565.1kg）および1日当り増体量（0.80kg）は低い。ロース芯面積（49cm²）およびBMS（2.1）は優れていたが、肉質等級4以上の割合は85.7%であった。

なお、県産県有種雄牛5頭については、今回の間接検定成績および現在実施中の現場後代検定成績の結果を検討し最終的に1～2頭選抜する予定である。

3. 指導上の留意事項

1) 間接検定法

検定場所 岩手県種山牧野事務所

検定期間（364日）

北峰および寿泉 平成3年6月7日～平成4年6月5日

森高藤 平成3年6月28日～平成4年6月26日

第5夏藤および第7昌桜 平成3年7月19日～平成4年7月17日

波福 平成3年11月29日～平成4年11月27日

給与飼料

濃厚飼料 間接検定飼料（TDN 73.0%，DCP 10.0%）不断給餌

粗飼料 乾草飽食、濃厚飼料の10%量のイナワラ

2) 検定屠殺時月齢は生後20～21カ月齢で、慣行肥育より10カ月程度早い。

4. 関連試験課題名

黒毛和種産肉能力検定（間接法）